

T4研究会とは

「XDDP」とテストプロセスの接続を研究する部会

➡現状では派生開発全般のテストに関して議論

◆これまでの発表

派生開発カンファレンス2011

「XDDPとテストを接続するための提案」

(発表者：厚田鳴海)



派生開発カンファレンス2012

「T型マトリクスを用いたXDDPとテストプロセスの接続」

(発表者：名野響)



◆現在のメンバー

井芹洋輝、重松信晶、名野響、秋山友秀、
矢野恵生、永田敦、奥村健二、依田誠二、
赤松康至、本田英稔、長友優治

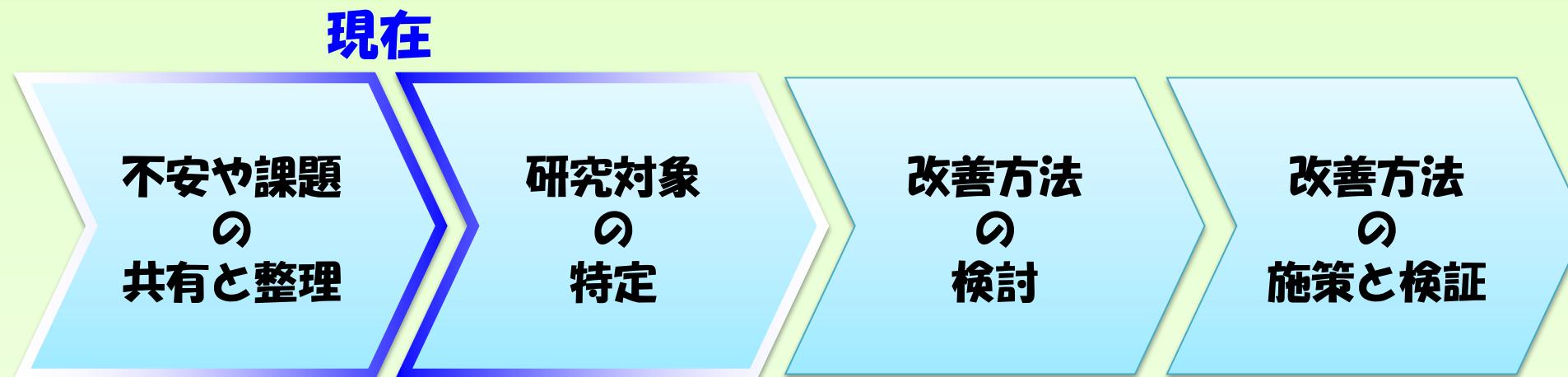
XDDPとは

派生開発の諸問題を解決し
かつ再生可能な効果的な
開発アプローチの一つ

(出典:派生開発推進協議会HP)

活動状況

◆活動の流れ



◆活動詳細

- 収集した不安・課題の因果関係による分析
<今回の展示内容>

- ・ **不特定多数**から収集したときの**分析ポイント**
- ・ **問題構造図**を作成してみても分かった点

- 今後の研究方針決め

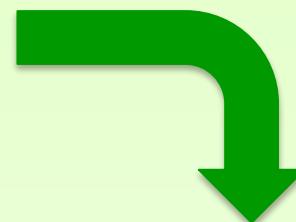
- ・ **T4としてどうしていききたいか**に基づく検討

いろんな方・背景も不明な場合に、どう分析したらいいのだろう？

不安・課題の問題構造図作成

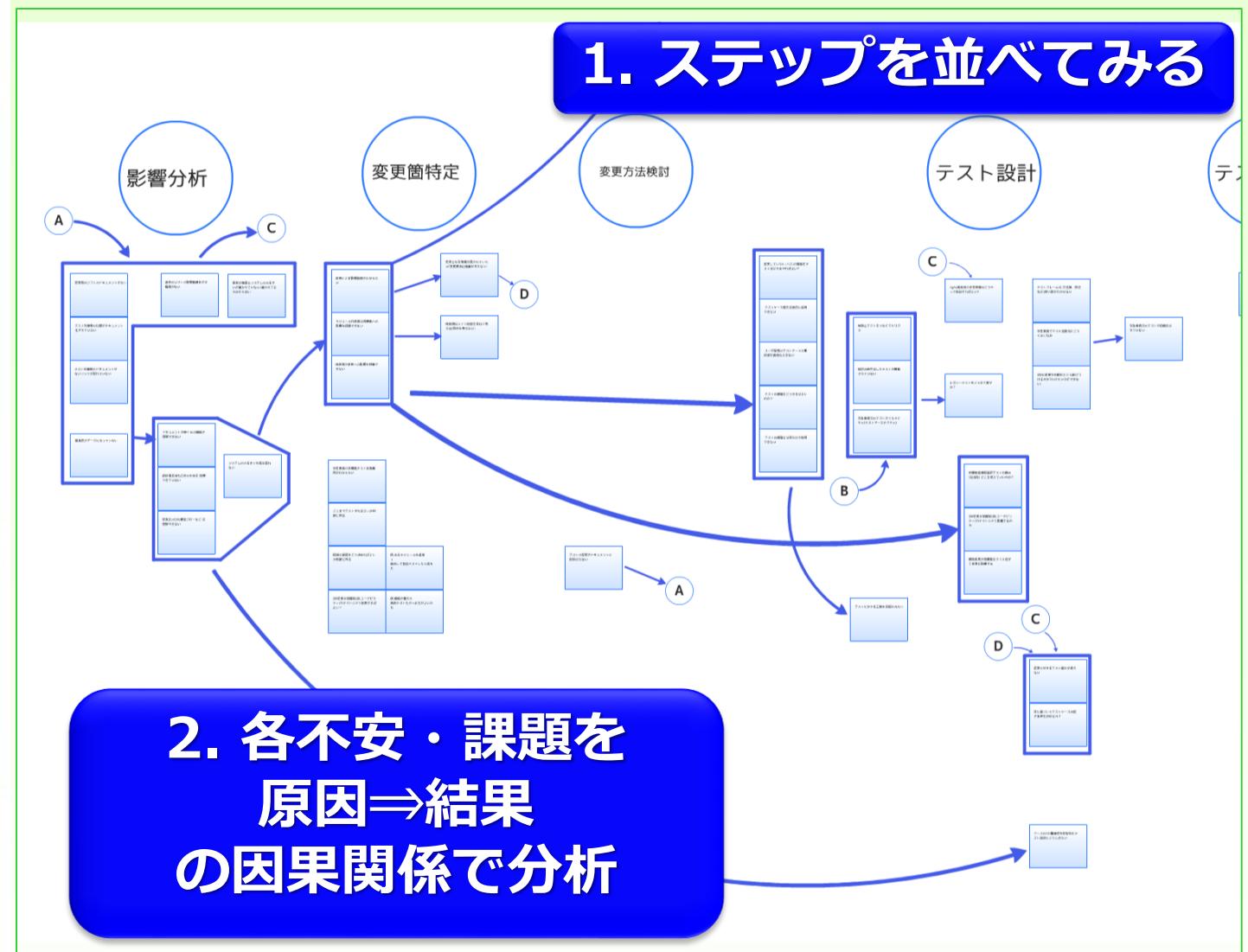
派生開発のテストにおける不安・課題マップ

	開発	テスト
もの	<ul style="list-style-type: none"> テスト対象のドキュメントがない ドキュメントとソフトの整合が取れていない 変更点がドキュメントに反映されない 変更要求仕様から機能/非機能仕様を読み取れない 変更点の機能/非機能仕様への影響が分からない 変更点が見える化されていない 変更元のソフトの詳細が不明である 	<ul style="list-style-type: none"> レガシーテストをどう立て直すか? 難易度が見える化されていない 開発完了後に既存のテスト仕様書を更新できない テスト仕様が断片化していく 開発とテストをつなぐマトリクスが巨大すぎてよく分からない ドキュメントが無いために派生元ソフトを理解できない
やり方	<ul style="list-style-type: none"> 開発側が変更の影響を把握できていない 開発側で例外処理が考慮されない 	<ul style="list-style-type: none"> ユーザー品質の期待値を数値化できない 工数を見積もれない 網羅率を示せない テストの十分性を説明できない 開発開始時に既存ソフトの自動テスト環境を整備できない 影響を考慮してのテスト範囲(機能/非機能)を設定できない 機能の変更が他の機能のテスト仕様(因子/水準等)に影響する テスト設計中にソフト(仕様)が変わり設計結果が無効となる 既存ソフトのテスト仕様/スクリプトがぐちゃぐちゃ(テストアーキテクチャが無い) 単機能のテストばかりやっている 障害が再現しないことがある テスト観点をうまく抽出できない フレームワーク(方法論/技法等)をうまく使いこなせない ベースソフトの難易度をテスト設計に取り込めない
人・組織	<ul style="list-style-type: none"> 他機能への影響を把握できない組織構造となっている 	<ul style="list-style-type: none"> テストツールの使用法を習得する時間が無い 開発チームとテストチームの間に壁がある 他機能のテストが他チーム任せとなる テスト工程の予算が削られる
その他全体	<ul style="list-style-type: none"> アジャイル開発による派生開発のテストをどのように実行するか? テスト設計に入るタイミングが分からない 成果物のトレーサビリティを確保できない 	



● SaPIDの問題分析・構造化を参考に実施

※SaPID: Systems approach based Process Improvement method
「SaPID」は株式会社HBAの日本における登録商標です。



(問題構造図の一部)

問題構造図作成ポイント

◆ 収集した不安・課題の出処

- T4メンバーから
- 各種イベント参加者から

JaSST'14 Tokyo, 派生開発カンファレンス2014, JaSST'14 Tokai

⇒ 困りごとの背景を知らないものもあり

◆ 問題分析・構造化にどう着手するか

- 問題発生順を利用した分析
 - ・ ステップに並べてからの分析開始
 - ・ 背景が不明なものはT4で考えだす
- ストーリーを考える
 - ・ 空中戦回避による問題への引き戻し
 - ・ 共感できるストーリーの醸成

実際の分析時には、
有識者の方のアドバイスを
得ながら実施しました。

問題構造図から見えるもの

◆ 収集した不安・課題を因果関係で整理して分かったこと

● 当たり前すぎるような内容

- ・ よくあること ← 素直な問題認識の現れ
- ・ 一般化されているところもある



◆ リアルなテスト業界の話

- 可視化してみても**再認識**できた

今後のT4 ~T4としてどうしていききたいか~

◆現場寄りの方向で進める

- テストは**知見が現場**にある
- 現場で生々しい課題を聞き出す

⇒問題の多くあがっていた影響分析は**T5**とも交流

◆テスト設計を中心に、誰が困っているのか調査

- 派生開発の不安課題を**テスト側で語られていない状況**への対応
 - ・ メンバーの現場からインスタンスの収集
 - ・ 参考にすることがない状況を変えていく

T4研究会への参加はaffordd会員であれば誰でも参加できます！

※afforddへの入会は以下のURLを参照ください。

http://affordd.jp/admission_guide.shtml